

「スマイルエリア」の導入 ～ 工事現場を通じて外環の魅力を発信！！ ～

秀島 健斗

¹関東地方整備局 東京外かく環状国道事務所 計画課（〒158-8580 東京都世田谷区用賀4-5-16 TEビル7階）

東京外環プロジェクトは、東京の市街地において地下の高速道路の工事を進めている大規模プロジェクトです。事業効果や工事進捗などを地域・社会に広く発信していくために、多くの方に、工事現場に足を運び工事状況をみていただくことが重要となる。

そこで東京外環プロジェクトでは、子供からお年寄りまで男女問わず、多くの方に安全・快適に現場をみていただくために、見学者にとって高い安全性・快適性が確保された見学エリアの考え方を導入し、「スマイルエリア」として設けていくこととし、見学者の多い現場から順次設置を開始し、工事現場を通じて外環の魅力を発信していくことを目指している。

キーワード 広報，東京外環（関越～東名），現場視察，スマイルエリア

1. 東京外環プロジェクトの現場見学

(1) 東京外環（関越～東名）事業概要

東京外環（関越～東名）は、関越道から東名高速までの約16 kmを、片道3車線の地下トンネルでつなぐ高速道路であり、平成21年の事業化、平成24年の有料事業許可を経て、東日本高速道路（株）、中日本高速道路（株）と国の3者共同で事業を推進している。

東名では平成29年2月に本線シールドマシンが発進し、本線トンネル工事がはじまった。東名JCTのほか、中央JCT、大泉JCTについても地上部を中心に、それぞれ複数の工事業者により、工事が進められている。



図-1 全体計画と幹線道路網図



図-2 東名JCTの現場写真

(2) 東京外環プロジェクトの現場見学

東京外環プロジェクトは、東京の市街地において地下の高速道路の工事を進めている大規模プロジェクトである。そのため、事業効果や工事進捗などを地域・社会に広く発信していくためには、多くの方に、実際の工事現場に足を運び工事状況をみていただくことが重要となる。

現在、東京外環には工事進捗に伴い現場見学が増加している。老若男女、さらには土木初心者から専門家まで多種多様な方が見学に来るため、この見学者の増加にあわせて外環の魅力を発信するため、東京外環プロジェクトでは多種多様なニーズに応じた現地見学を企画してい

ている。その際、東京外環プロジェクトの見学対応チームでは、以下の3つを見学時のポイントとし、随時対応している。

まず1つ目は、時間の有効活用である。限られた時間内で余すことなく東京外環の魅力を伝えるべく、説明場所や移動しながらの説明対応など工夫をこらして行程を組むことを心がけている。

2つ目に現場の臨場感を伝えることである。模型や実物を提示したり、現在地を明確に説明することで、現場の臨場感を感じてもらおう工夫をしている。また、写真撮影ではアングルにもこだわり、現場視察をした記念となるような素敵な写真の撮影を行っている。

3つ目に見学者のニーズに合わせて行程を組むことである。見学者の職業や興味関心事に合わせて、当日の説明資料や説明セリフの組み替え、さらには見学場所の選定を行い、見学者が満足して帰ってもらえるような行程を組む工夫を行っている。

2. 「スマイルエリア」の導入目的

東京外環プロジェクトでは、上記の通り現場見学の運営について様々な工夫を重ねてきた。平成29年8月2日（水）には国土交通省DAY夏休み親子見学会が開催され、小学校4～6年生の子供1名と親1名の19組38人が東名JCT（仮称）の現場見学を行った。当日は通常の見学行程に加えて体験型イベントを企画し、小学生に喜んでもらえるような内容に重点をおくなど、見学内容にも工夫を凝らした。



図-3 夏休み親子見学会の様子（集合写真）



図-4 建設機械への乗車体験

そうした中で、見学者の増加にあわせ運営サイドのみならず現場環境にも工夫を凝らし、一層外環工事の魅力を発信してはどうか、との意見が上がるようになった。現場用の傾斜の急な狭い階段や和式トイレ、水たまりで泥汚れのつく地面などがその一例である。そこで東京外環プロジェクトでは、子供からお年寄りまで男女問わず、多くの方に安全・快適に現場をみていただくために、通常の工事現場と比べ、見学者にとって高い安全性・快適性が確保された見学エリアの考え方を導入し、「スマイルエリア」として設けていくこととした。

3. 「スマイルエリア」の考え方

「スマイルエリア」とは下記の考え方をもとに設置されたエリアであり、各事業者及び施工会社にて検討・設置を行うことを基本としている。

表-1 スマイルエリアの考え方

考え方	詳細
誰もが	子供からお年寄りまで男女問わず、 <u>誰もが</u> 、安全・快適に現場を見学可能 (例：段差がない、手すりがある、階段が広い・緩やか、身長差を考慮した設備など)
普通に	一般の方が <u>普通の服装・靴で</u> 、安全・快適に現場を見学可能 (例：泥汚れや水たまりがない、突起物がない、荷物置きやベンチがある、など)
いつでも	天候、季節、時間を問わず、 <u>いつでも</u> 、安全・快適に現場を見学可能 (例：雨に濡れない、日陰がある、照明が明るい、トイレがある、など)
わかる	工事内容が <u>わかる</u> 工夫がされている (例：説明資料が充実、見どころや建機名が明示、写真スポットが明示、など)

現在、見学者が多い工事現場から順次、設置を開始している。「スマイルエリア」として認定された箇所には、下記のロゴマークを設置することとしている。

また、そのうち、「工事内容がわかる工夫」がされている箇所には、写真スポットがわかるよう、フォトスポットのロゴマークを設置することとした。



図-5 上：スマイルエリアのロゴ
下：フォトスポットのロゴ

4. 「スマイルエリア」の導入事例

(1) “誰もが”

まずはじめに、考え方の一つ目である“誰もが”の項目についてであるが、主に考えられる例としては、通路やエリア内に段差がないこと、手すりがあること、階段が広く傾斜も緩やかであること、身長差に考慮した設備が備わっていることなどが挙げられる。体格差や年齢差があっても、それぞれが不快に感じず、安全に、かつ、快適に現場を見学していただくべく設定されたものである。現在、東京外環には小学生から高齢の方まで様々な年代の見学者が来ており、対応が求められるところである。

図-6 の現場においては、スマイルエリアの考え方を導入し、工事用の階段から、傾斜が緩やかで踊り場の設置された現場階段を設けた。



図-6 傾斜が緩やかで踊り場の設置された現場階段

(2) “普通に”

東京外環の現場見学にあたっては、動きやすい服装や靴で来場してほしい旨を伝えてはいるものの、作業着や長靴を必須とはしておらず、来る方の多くは、日常の服装や靴で現場見学へ来ている。そのような中で、普段通りの服装でも、安全・快適に現場を見学可能にすることが必要となる。

考え方の具体例としては、泥汚れや水たまりがないこと、通路やエリア上に突起物がないこと、荷物置きやベンチが設置されていることなどが挙げられる。

図-7 の現場においては、スマイルエリアの考え方を導入し、どのような靴でも快適に現場を見学できるよう、床がきれいな見学エリアを設けた。



図-7 床がきれいで木陰のある見学エリア

(3) “いつでも”

現場見学当日の天候や季節に左右されずに、安全・快適に現場を見学できるという考え方として、主に考えられる例としては、雨に濡れないよう屋根が付いている、夏の熱中症予防のため日陰がある、夕方や曇りの日でも視認性を確保するため照明が明るいこと、近くにトイレが設置されていることなどが挙げられる。

現場見学の日程は、早いときには半年前から決定していることもあり当日の天候が読めない場合がほとんどである。また、当日の見学者の年齢や性別、体調などにも考慮する必要があることを考え、臨機応変に対応できる現場環境の整備が求められている。

図-8 の現場においては、複数の見学箇所を移動する際の休憩時間において、工事現場内に設置された快適トイレを現場見学者にも開放して使ってもらおうとしている。



図-8 現場内に設けられた快適トイレ（洋式）

(4) “わかる”

現在、東京外環に見学に来ている方の中には、一般の方も多く含まれており、外環の魅力や工事概要をより良く理解してもらうためには、難解で詳しい説明より、わかりやすく簡潔な説明が求められる。

どのような方にも現場の工事内容や魅力をわかりやすく伝えるため、現場としての見どころや建設機械の名前が現場に明示してあること、良い写真が撮影できるおすすめのスポットが明示してあることなどが挙げられる。

下の図-9は本線トンネルのシールドマシン発進立坑の様子である。トンネル外径がペイントしてあり、トンネルの大きさ・規模感を直感的に伝える工夫をしている。



図-9 トンネル径がペイントされた現場風景

5. 今後の展望

- ・ 千葉県側の外環道工事が平成30年6月2日に開通し、今後さらに東京外環の工事進捗・事業効果を伝えていく必要があるため、順次各現場に「スマイルエリア」を導入していく。
- ・ 東京外環は全線16キロのプロジェクトであり、複数の工事が行われているため、「スマイルエリア」の導入事例を各現場で共有することで、グッドプラクティスの水平展開を図る。
- ・ より見学者のニーズにあった「スマイルエリア」を導入するため、見学者のニーズを把握するためのアンケート等の仕組みの導入について進める。